

■令和6年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について 令和6年4月現在	・浸透している	・概ね浸透している	・浸透していない
	令和5年度の実践をもとにし、第2期小中一貫教育の取組を充実させるとともに、課題を精査し、実践する。		

※計画書の見方

○「進捗状況」について………A:検討中 B:着手済 C:令和5年から継続 D:令和6年度になって見直し

○「具体的な内容」について…【P】:Plan(計画) 【D】:Do(具体的方策)

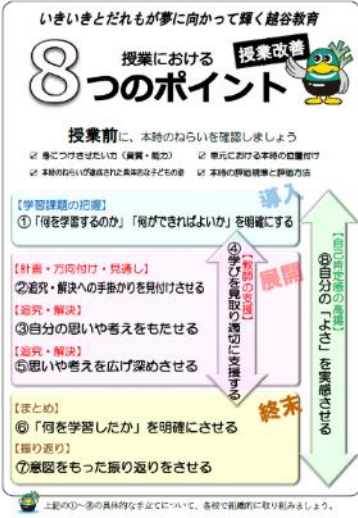
【C】:Check(チェックの方策。チェックを行った結果) 【A】:Action(今後の取組)

(1)目指す児童生徒像について

N O	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	共通する目指す児童生徒像の設定	A B C D	ブロックの共通する児童生徒像 「夢や目標をもち、その実現に向けて自ら考え努力する児童生徒 ① 自ら進んで課題に取り組み、考えを発表することができる児童生徒 ② 生活の基本を身につけ、礼儀正しくすることができる児童生徒 ③ 互いに尊重し、ともに認め合うことができる児童生徒 学校独自の児童生徒像 「主体的に学び、よりよい自分を求め努力する心豊かな児童」 ◇自分の考えをもち、自分の言葉で表現することができる子 ◇学習したことを活用することができる子 ◇課題に根拠よく取り組み、やりぬこうとする子 ◇お互いのよさを認め合い、自分や友達を大切にすること ◇元気な挨拶や返事、望ましい言葉遣いができ、人のかかわりを大切にする子 ◇自分のために、そして人のために行動できる子 ◇進んで外遊びや運動をして体を鍛える子 ◇生活や学習の規律を守り、自分の役割を果たす子 ◇健康や安全に気を付けて生活する子
2	身につけさせたい資質・能力	A B C D	ブロックでつけさせたい資質・能力 1 多面的・多角的に考え、自分の課題を見つけ、解決する力 →授業改善・学校生活アンケート①②③④ 2 自己肯定感を大切に、意欲をもって自己を高められる力 →授業改善・学校生活アンケート⑩⑪⑫ 3 自他共に認め合い、学び合う力 →授業改善・学校生活アンケート⑤⑥⑦ ※→は育成を目指す資質・能力の指標 学校でつけさせたい資質・能力 1 多面的・多角的に考え、自分の課題を見つけ、解決する力 2 思いや考えを、自信をもって分かりやすく伝える力 3 ねばり強く、最後まで頑張る力

3	合同研修組織の設置	<u>合同研修組織部会名等</u> 小中一貫教育研究推進委員会（継続） ・企画調整部会(教頭、主幹教諭)→5月、9月、2月に開催予定。 ・本年度の指導の重点を3校で授業における8つのポイントを意識した「授業スタンダード」の実践。(R5 作成:算数「授業スタンダード」、国語「授業スタンダード」の実践) ・「各教科の見方・考え方を踏まえた授業づくり」を踏まえ、以下3点を実践する。 ① 小中一貫理科部会で協議を進め、「理科の授業スタンダード」を活用し、国語・算数以外の教科に目を向けることで、★「各教科の見方・考え方を踏まえた授業づくり」を具現化していく。 ② 教科横断的な指導の充実に向けて、例えば各教科で「根拠を述べる」などの「言語活動の充実」に重点を置き、「書活動」「発表」「ICT・ロイロノートの活用」を進める。 ③ <u>研修主任が中心となって育成を目的とする資質・能力を明確化し、アンケート調査及び指標の見直しと組織の見直しを行う。(夏季合同研修会)</u> ・授業充実部会… 対話的な学び・ICT活用・UD教育 ・豊かな心部会… 調査研究部会・生徒指導・教育相談・進路キャリア ・児童生徒交流部会… 掲示教育・特別活動交流・特別支援交流 A 合同各教科部会(11 教科部会) B 国語・算数数学・社会・理科・外国語英語・図工美術・音楽・技術家庭・保健体育・道徳・養護 C 3校合同研修会夏季休業中に実施 第2期小中一貫教育の方向性について 授業充実部会・豊かな心部会・交流部会では、3校が令和5年度取り組んできた内容を確認するとともに、実践方針を確認する。 合同各教科部会では、本年度の実践の方針を話し合うとともに、各専門部会が「学習課題」「深まり」「まとめ」「ふりかえり」などの板書カードの文言を3校で共通のカードを活用し授業実践を行う。 実践内容について、授業参観等を活用し、確認する。 <u>学校独自の部会名等</u> 【大相模小授業充実部会】 ・教科研究部会 - 研究重点教科(※R6 体力向上)の授業改善に係る研究 ・調査・研究部会 - 各種アンケート及び調査結果の集計、まとめを行う(分析は各学年で行う) ・対話的な学び部会 - 各教科における対話的な学習の場面について授業改善を行う ・ICT活用部会 - 各教科及びその他教育活動における ICT 機器の活用を研究する ・UD教育部会 - すべての児童が理解しやすく、すべての教員が指導しやすい資料の作成を行う ・掲示教育部会 - 児童の自己肯定感を高める掲示物の研究および、各部会で使用する掲示物等の作成
---	-----------	---

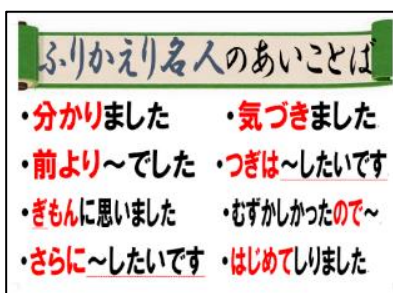
(2)小中一貫教育7つの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
4	(授業における8つのポイントの活用)	A	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・各教科部会で8つのポイントの取組を検討し取り組む。 ・各教科ごとのに重点単元を設定して、小中で継続した授業に取り組む。 ・相互授業参観を実施し、各教科の取組について検証し、指導方法の工夫・改善を図る。 ・各教科の見方・考え方を踏まえた授業づくりの実践を行う。  
		B	
		C	<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】
		D	・授業における 8 つのポイントと各教科等の「見方・考え方」を意識した授業実践の具現化を踏まえた授業実践 ・明確な課題設定とねらいに沿った振り返り活動の実施 ・体育科における指導方法の工夫改善及び ICT 機器の活用 【P】 (1)7つの取組、8つの授業ポイントの実践のため実践自己チェックを行い、全教科で「主体的・対話的で深い学び」「指導と評価の一体化」を目指す。 (2)子どもがより主体的に授業に取り組めるように「課題設定」をテーマに掲げ、授業における課題設定について研修を行い、学習の課題やねらいに沿った振り返りの時間を確保した45分間のタイムマネジメントのできる授業づくりを進める。 (3)「自分の考えの根拠を示すこと」「主体的に意図的な話し合い活動」に取り組む。 (4)ICT 機器の活用(ロイロノート、AIドリル、その他アプリ) (5)体育科を研究重点教科とし、指導計画の作成、授業の流れ、授業規律等など、指導技術の向上を図る。

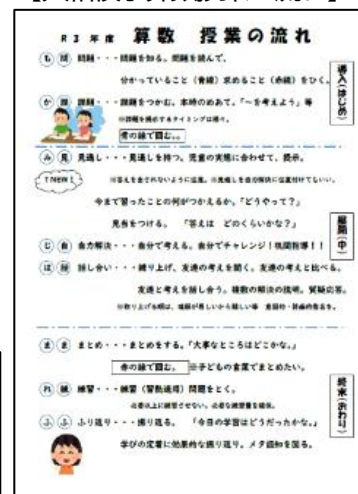
【D】

- (1)―①研修主任が校内研修において「日常の授業で、1単元・1時間」の学習の課題の明確化とねらいに沿った振り返りの確保、および45分間のタイムマネジメントのできる授業づくり」について共通理解を図る。(4月共通理解)【表1 大相模中の基本的な授業の流れ】
- (1)―②年度当初の研修で、教頭から8つのポイントについて説明し、共通理解を図る、まとめと振り返りについても全教科で確実な実践を行わせる。
- (2)―①校内研修において、「8つのポイント」のポイント①学習課題の把握、⑥まとめ、ポイント⑦振り返りの項目について、研修主任を中心に教職員間で共通理解を図る。【各研修】
- (3)―①対話的な学び部会と UD 教育部会が連携し、意図的な話し合い活動ができるように、大相模小授業スタンダードの中に、話し合い活動の観点や方法を明記し、全校で取り組む。
- (3)―②研修主任を中心に「自分の考えの根拠を示すこと」「意図的な話し合い活動」に引き続き取り組むとともに、「課題(めあて)」と「まとめ」「振り返り」ができることを前提にして、導入場面での「～かな」「～したい」を引き出すための工夫に重点的に取り組む。(4月中に共通理解)
- (3)―③全職員による全教科でまとめと振り返りを授業で行うことにより、理由をつけて自分の考えを話したり書いたりできる児童を育成する。(通年)
- (3)―④教科部会を中心に教師用・児童用「教科スタンダード」の共通理解と活用。(4月)
- (4)―①情報主任に指示し、ロイロノート活用研修会を実施する。全職員による授業支援アプリ(ロイロノート)の活用を通して、自分の考えを伝えたり表現したりする力をつける。毎日、1時間はICT(ロイロノート)を活用することを目指す。
- (4)―②ICT 活用部会を中心に教科及び特別活動等で育成を目指す資質・能力を高めるための効果的な ICT 活用実践を研究する(通年)
- (4)―③研修主任を中心に個別最適化の学習への活用のための AI ドリルの校内研修(4月中)
- (5)―①指導主事を招聘し、「体育の授業づくり」研修会を実施する。(5月中)
- (5)―②体育主任を中心に体育授業の流れについての校内研修を行い、授業の流れの共通理解を図る。(5月中)
- (5)―③体育主任が中心となって体育授業の流れを研究するとともに、学習規律の確立を図る。

【表1 大相模中の基本的な授業の流れ】



【大相模小算数授業の流れ】



【大相模小国語授業の進め方】

【大相模小理科授業スタンダード】

【大相模小体育授業45分の基本の流れ】

大相模小学校 体育授業 45 分間の基本の流れ		
時間	授業の流れ	留意事項
1分	整列 8列横隊が基本	【低学年】縦隊に整列してから教師が移動 【球技等】チームやグループ等 ○集合したら各自で「前へならえ」を行う。 ○整列や姿勢を直す。
5分	挨拶 準備運動 準備運動、ストレッチ等	○教師主導で、児童に声をかけながら正しい動きをさせる。
2分	用具の準備	○安全な準備の仕方を明確にし、指導する。 ○児童の必要分位を明確にする。単元の始めに行うと◎
5分	なれの運動（基礎学習）	○学習内容（本運動）につながる基礎的な感覚づくりの学習を行う。 ※ポイント集参照
1分	学習内容の確認 	○本時の学習内容【共通課題】を明確にする。 （指示物、教師の課題、発問等） 例）① 足マツト運動 ② 「前向きに倒立前転ができるようになってきたね。みんなの振り返りの中に、倒立前転をもっと美しくなりたい、という声があったね。」 美しい倒立前転をしよう ③ 「どうしたら美しい倒立前転になる？」 ④ 「足がまっすぐ伸びている」「前立で3秒止まる」 ⑤ 「それができると美しい倒立前転になるね。それでは、自分の課題を解決するために庵を選んで練習しよう」 ※主運動にめざす姿に共通する課題やポイント、本時のめあてを明確にする。
25分	主運動 ①課題解決のための場を確保する。練習に取り組む。 ②課題を達成した児童や高い合いの上手なペア等、全体に広めたい姿を称賛する。 ③発展的な学習内容を提示する。 ※20分以上は確保する。 	○めあてに沿った明確な場づくりを行い、安全に気を付けるように留意する。 ○運動量の確保を意図する。 ①10分を限度に途中指導(②)を入れることで、集中力の低下や事故防止を図る。 ②課題を達成した児童には、さらに発展的な発問や課題を提示することで、さらに意欲を高める。 ☆どの課題領域でも、1時間(20分)以上の児童への指導かけを目指します。 【基本となる者】1人2回(助走と発問)・全体 ☆運動能力の高い子に2回、低い子に5回、中の子に3回配分するようにします。 ☆教員は7割に全体を見渡せる位置に立つようにします。
2分	学習のまとめ・振り返り 本時の学習内容に正対した評価を全体で行う。	○学習内容と評価がふれないうちに、 例) 縦列整列、補助倒立前転で場を遊び練習することが学習の内容 ③「今日の課題の解決のために意識したこと何？」 →発問や振り返りカードを使って、運動を振り返る。
2分	片付け	○役割分担をし、安全に素早く片付けさせる。 ○終わったら整列して待つ。
1分	整理運動	○両肩や股関節をゆるげるため、軽い歩行、ストレッチ、体操などを行う。 ○呼吸の順色を確認したり、けがの確認をしたり健康観察を行う。
1分	挨拶	○服装、姿勢を直す。 ○初めの挨拶同様、元気づけ行う。

【大相模小準備運動の進め方】

大相模小学校 準備運動

準備運動の動きに専念できるように、児童は数回(アザー)又は手拍子でリズムをとるようにします。(手拍子を基本とし、学年活動等の大人数の場合はブザー等を使用してください)

①屈伸

リズム 1 2 3 4 5 6 7 8

ポイント【曲げるとき】
・前を向く
・膝の上をもつ
・反動をつける
・反動をつける

ポイント【伸ばすとき】
・前向き、膝を見る
・両手で膝の上をもち、足の後ろが伸びるように押す

②伸脚（浅く）

リズム 1 2 3 4 5 6 7 8

ポイント
・胸を張り、前を向く
・反動をつけ、伸ばす足を握る
・曲げる足のかかとと地面につける

③伸脚（深く）

リズム 1 2 3 4 5 6 7 8

ポイント
・胸を張り、手を前方で組み、前を向く
・足を伸ばし、伸ばした足のつま先は真上に向ける
・曲げる足のかかとと地面につける
・8で立てて足を交える。

④前後屈

リズム 1 2 3 4 5 6 7 8

ポイント【曲げるとき】
・足を肩幅に開く
・反動をつけて、3で強く曲げ、両腕を握る
・後ろを見る

ポイント【伸ばすとき】
・腰に手を当てる
・頭が膝の高さに来るまで反る
・後ろを見る

⑤両足

リズム 1 2 3 4 5 6 7 8

ポイント
・ひざから動かす
・上半身の力を抜いて、大きく動かす

⑥アキレス腱

リズム 1 2 3 4 5 6 7 8

ポイント
・手は膝に置く
・両つま先は足裏を握る
・前の方に体重をかける
・かかとと地面につける

⑦手首足首

ポイント【曲げるとき】
・足はつま先を立てて、大きく回す
・手は指をしっかりと組んで大きく回す

☆児童は右から行い、教師は左から行う
☆のポイントは特に重要！

学習過程の工夫と学習形態の工夫

A

B

C

D

4

【C】

(1)「授業改善・学校生活アンケート」(1)(2)(3)のすべての項目での、肯定的評価最上位項目(2 学期実施)

(1)(2)(3)(5)管理職が日々の教室訪問において、課題設定場面及びポイント①学習課題、⑥まとめとポイント、⑦振り返りの項目の指導状況と45分間のタイムマネジメントができているかの見届けを行う。見届けた後には指導助言を行う。

(1)(2)(3)「授業改善・学校生活アンケート」を活用し、教職員と児童の意識の違いについて検討するため、校内研修会を行う。(2 学期実施)

(4)ロイロノートの授業への活用の取り組みについて全クラスが1日1時間以上タブレット端末を活用した授業を実践しているか管理職がタブレット端末使用状況で確認する。(毎月)

(1)(2)(3)(4)共通

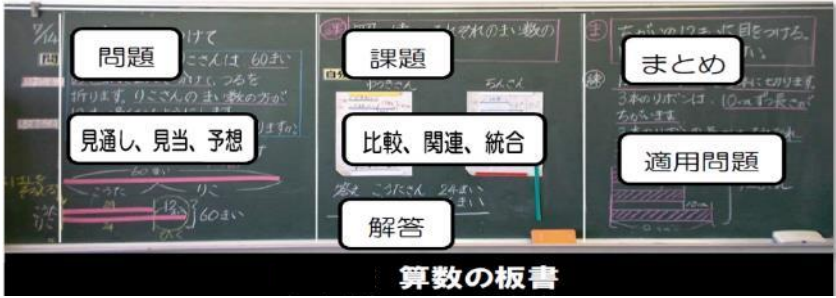
・全国学力・学習状況調査の分析・考察

・令和6年度埼玉県学力・学習状況調査の分析・考察(伸ばした児童の割合:伸び率)

・越谷市検証テストの分析・考察

ブロックでの共通内容・取組内容など

・1時間の学習内容がすっきりと整理された構造化された板書。めあてや課題とまとめや振り返りが正対する板書。



板書イメージ

① 問題、課題に対する見通しを立てる

② 自力解決、自分の考えを書く

③ 話し合いでできた意見をかく
中学校では「深まり」にあたる

④ 練習問題を解く

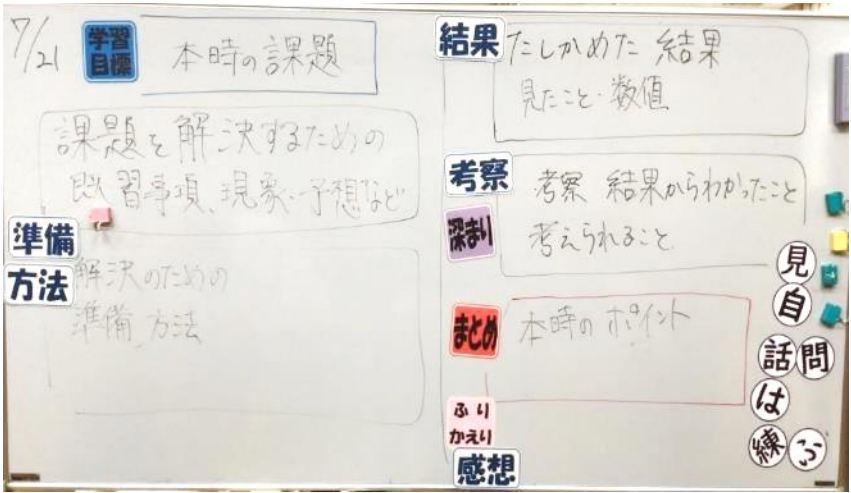
⑤ 1時間の振り返りを書く

ノート・ワークシートイメージ

上の板書イメージに沿って、課題は青で囲む。まとめは赤で囲む。
自力解決、話し合いでの意見を書くという流れがわかるように書いていく。

国語科 授業の進め方 ※児童配布用

あいうえお	1 あいさつ 2 国語の準備体操 (話すこと・書くことの学習→ペアでの対話活動等) (書くことの学習→ことばさがし等) (読むことの学習→音の経験等)
かきくけこ	3 学習の振り返りをもつ ① 国語の振り返り ② 準備のめあての経験 ・めあては書きで読む。 ③ 国語 4 自分の考えを書く(もつ)。 ・友達の意見をもとに考える。 (結論→理由の順番で考えを伝えられるよう、書き方を工夫する。)
さす	5 考えを伝える・聴く。 ① 自分の考えを伝える。(ペア・グループ) ② 友達の意見を聞いて、自分の考えと比べる。 (意見の違いを認め、友達の考えを理解するために質問する。) ③ 話し合いを通して感じたことをもとに、自分の意見をまとめる。 (話し合いを通して、自分の考えを再考する時間を作る。)
た	6 まとめ・振り返りをする。 ・授業で用いた言葉を用い、めあてに即したまとめをする。 ・まとめは書く。 ・振り返りでは、授業で学んだことを、自分の言葉で書く。 【振り返りの書き方】 ① 学んだこと、感じたことを書く。 「今日の授業で～だと学びました。」 「○○さんの考えが～と違ってききました。なのでわたしも～と考えることができました。」 ② 学んだことと自分の考えを書く。 「～することを意識して取り組み、～が大切だと分かりました。」 ③ 学んだことと自分の考えを比べ、今後どうすればいいかを書く。 「～することができなかったので、次は～していきたいです。」 ④ 教材から学んだことをもとに、今後どうすればいいかを書く。 「この学習を通して～だと感じたので、今度は～していきたいです。」 (○○日記や、○○メーター、結果の音読等、教材に応じて振り返りの方法を工夫してもいい。)
な	7 あいさつ 次時の学習の準備



【授業の流れを生かした各教科における板書計画】(3校合同研修会より)

5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 <u>全教科、「課題に正対した、まとめ・振り返り」を意識した、ノートづくり・板書計画の実践</u> 【P】 (1)全校で全教科の授業において、見方・考え方を意識した「めあてや課題」の提示の工夫、及び「めあてや課題」と正対した「まとめや振り返り」がある板書の習慣化 (2)「授業改善・学校生活アンケート」の授業づくり(1)(2)の肯定評価上位項目 (3)各時間、自分の考えや根拠・理由を添え記述させ、思考の跡がわかるノートづくりをする。 (4)課題と問題の違い、まとめと振り返りの違いを研究し、学習の流れに重点を置いた構造的な板書の授業実践をしていく。 【D】 (1)―①年度当初の研修において、教頭より全教科で実施する旨、全教職員に周知する。また、日常的に教材研究を学年会で行う際に、板書計画とノート指導の統一化について、以下の内容も含め学年主任からも指導を行う。 1 まとめ 低…教師と児童と一緒に考えながら板書を写す。 中…キーワードとなる言葉を使って自分の言葉で表現する。 高…キーワードとなる言葉を探して自分の言葉で表現する。 2 振り返り 全…「めあてや課題」を確認して自分の言葉で「わかったこと」「学習したこと」を中心に行う。 (1)―②黒板に「めあて・課題」「見通し」「予想」「自力解決」「話し合い」「考察」「まとめ」「振り返り」などのカードを貼り、授業で必ず使用する。(4月の研修で確認) (1)―③黒板に「めあて・課題」「見通し」「予想」「自力解決」「話し合い」「考察」「まとめ」「振り返り」などのカードを貼り、授業で必ず使用する。(4月の研修で確認) (1)―④各教科主任による研究授業の参観を通して、45分間のタイムマネジメントが確立された、授業の流れが分かる板書について共通理解を図る。 (1)―⑤教職員については、各教科の授業の板書計画を作成して毎日の授業に取り組むよう指導する。 (1)―⑥小中一貫3校合同夏季研修で取り組んだ各教科の 8 つのポイントを意識した板書計画を基にした授業展開を実践していく。(2学期) (2)―①授業支援アプリ(ロイロノート)及びその他のアプリの活用をさせるために、情報主任を中心となり活用方法の研修を行う。 (2)―②研修主任が中心となって、各種学力調査の結果から課題を把握し、各教科で自力解決やまとめ文字数制限を設けたり、条件を選択して回答する問題を各学年で作成したりして取り組んでいく。(10月) (3)―①研修主任が中心となって、8つのポイントを意識した授業づくりについて共通理解を図る。 【共通理解事項】 ・自力解決で、自分の考えをノートに書かせる。 ・各学級で授業スタンダードを活用し、児童の作成したモデルノートを掲示し、使い方を徹底させる。 ・黒板は、3分割を基本とし、「めあて・課題」から「振り返り」までが一目で分かる板書を書く。(4月) ・「まとめ」は、自分の言葉でまとめさせ、その際本時で学ばせたい学習用語を用いてまとめることを徹底させる。 ・「振り返り」は、児童自身が「何ができるようになったのか」「何がこれまでと違うのか」を考えさせることで、次時への意欲付けを図り、授業における自己肯定感の高揚を図る。 【C】 (1) 板書計画の習慣化については、校内巡視の中で概ね構造的な板書を実践させ、45分間タイムマネジメントが実践されているか教室訪問等で管理職が確認する。 (1)(2)共通 <u>・全国学力・学習状況調査の分析・考察</u> <u>・令和6年度埼玉県学力・学習状況調査の分析・考察(伸ばした児童の割合:伸び率)</u> <u>・越谷市検証テストの分析・考察 (No.4 再掲)</u> (3)研修主任が中心となって、越谷市授業改善・学校生活アンケートの授業づくり(1)(2)の結果を各学年で分析し、課題を把握する。
---	--------------------	---

6	生活規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など ・大相模中学校区「学校生活のきまり」を受け、目指す児童・生徒像の実現を目指す。 ・はいと返事、履物そろえ、笑顔で挨拶 ・役割を果たすよう意識する。 ・思いやりの心で接する ・きまりを守るよう意識する。 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 あいさつ、靴そろえを年間通した目標とし、<u>家庭と連携して</u>、年間を通して意識づけをしていく。 【P】 (1)生徒指導部会が中心となり「挨拶」「くつそろえ」の項目において学校生活で身に付けたものを家庭で生かせるように子供への指導と家庭への呼びかけを工夫する。 (2)いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、いじめの根絶を目指す。 【D】 (1)―①「大相模小学校みんなのきまり」【表6】ポスターを全教室に掲示し、意識付けと実践を図る。 (1)―②「大相模小学校みんなのきまり」を保護者に配付し、理解を家庭でも指導するよう依頼する。 (1)―③学校便りや学級懇談会等で「大相模小学校みんなのきまり」について周知する。 (1)―④年間を通しての目標である「挨拶」「くつそろえ」について毎月、自己評価をさせ、毎月の生徒指導部会で評価をしていき、意識できるようにする。(生徒指導部会) (2)―①4月の朝会でいじめについて、校長講話を実施する。 (2)―②いじめ防止対策委員会を毎月、計画的かつ確実に開催する。 (2)―③★大相模中学校より自殺予防の取り組みとして『メンタルヘルスリテラシー』研修を行い、児童が悩みや自殺等について自分だけでなく、友達のことについてもSOSを発信できるようにする。 【表6 大相模小学校みんなのきまり】 【C】 (1)「学校評価」における「友達と仲良く活動する」「挨拶」「くつそろえ」の項目で、保護者と児童の意識の違いについて分析し、保護者へ情報提供して、家庭での指導に活かせるようにする。 (2)調査・研究部会が中心となって各調査の結果を考察し、全体で課題解決の方策を検討する。(2学期)
7	学習規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など ・休み時間の前に授業準備 ・授業の挨拶は元気にする。 ・大きな声で発表する ・正しい姿勢で学習に臨む ・自主学習を継続的に進める。

		<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 規律を守り、落ち着いて学習に取り組める環境づくりの徹底 【P】 (1) 落ち着いて学習に取り組める環境をつくるため、生徒指導主任が中心となって4月当初から学習規律の再確認を行い、学校全体で取り組んでいくための体制を整える。 (2) 学習規律について生徒指導主任を中心に共通理解が必要な項目を検討する。 (3) 「規律」に関して、学校と家庭でギャップがあることを学校だよりや懇談会等で家庭に周知し、家庭を巻き込んだ実践を行う。 【D】 (1) ①4月当初の生徒指導委員会全体会で、全職員で以下の学習規律の確認し実践する。 「授業開始・終了のあいさつ」「挙手の仕方」「発表の仕方」「筆箱の中身」「道具箱の中身」「校内・校外でのあいさつ」「廊下歩行」などの「大相模小学校みんなのきまり」を児童、保護者にも周知する (NO6D 参照) (2) ①生徒指導部会で、児童の実態把握、課題の共有、及び解決策の検討・実施を行う。 (3) ①学校だより等で家庭に啓発し、懇談会等で学校・家庭での状況についての情報共有と家庭の協力を得られるよう働きかける。 【C】 (1) (2) 生徒指導委員会を中心に、毎月の指導内容を振り返り、学年の実態に応じた指導を継続して行う。 【確認事項】 ・休み時間のタブレット端末の使用のルール ・業間休みの校庭使用のルール ・家庭でのタブレット端末使用のルール ・通路歩行のルール ・服装等のルール (1)(2)(3) 学校評価における「あいさつ」及び「時間を守る」の項目で、教職員及び保護者と児童の意識の違いについて分析。 (2) 研修主任が中心となって県学力学習状況調査や質問紙調査の結果を夏季休業中の研修にて学年で考察し、課題を把握し授業改善に生かせるようにする。 NO.4【C】(3)再掲。 (1) 授業改善・学校アンケート調査について主幹を中心にまとめ、状況を確認する。
--	--	--

8	家庭学習の統一化 (家庭との連携)	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・「家庭学習の継続、習慣化を目指す」という目標を共有する。 ・家庭学習の評価のあり方、学力に応じた指導を検討し、懇談会等で保護者との連携を図る。 <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 AIドリルを活用した家庭学習の効果的実践 【P】 A (1)児童が引き続き意欲的に取り組むために、家庭学習の目的を明確にする。また、児童と保護者にも家庭学習の目的とその効果が実感できるように周知する。 B (2)AI ドリルを活用した個別最適化の学習を研究するとともに、AI ドリルの内容についても保護者に周知し、家庭学習の理解を深める。 【D】 C (1)学年会で検討し、発達段階に応じた時間、分量、内容の設定を行う。(随時) D (2)大相模中学校と連携し、家庭学習の意義を児童に理解させる(高学年)とともに、自主的な学習を促す。また、学年の実態に応じ、家庭学習ウィークを設定することで、自ら計画を立て、課題に取り組む経験をさせる。 【C】 (1) 調査・研究部会が中心となって「学校評価」における「宿題や家庭学習」の項目から、保護者と児童の意識の違いについて分析し、学校の指導に活かすとともに、家庭での指導に活かしてもらうようにする。
---	----------------------	--

(3)学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
9	各種学力調査の分析	A B C D	<u>ブロックでの共通分析結果等</u> ・各担当学年で分析する ・つまずき箇所を書き込む - つまずき箇所解決のための ・方策を立てる ・具体策を実践する ・全国学力学習状況調査を実施し、課題分析を行う。 ・指導主事を学年会や教科会に呼び、学力向上策について、ご指導をいただく。 <u>学校の分析結果</u> <国語> (1) 主語・述語の理解については改善がみられた。 (2) 国語辞典の使い方、ローマ字に課題がみられた。 (3) 文章題に課題がみられた。 <算数> (1) 図形の領域に課題がある。特に円に関しては課題がみられる。 (2) 学年ごと特定の領域に課題がある。 <社会> (1) 身近な生活にかかわる問題に課題がみられる。 (2) 水産業の問題に課題がみられる。 (3) 江戸時代と政治に関する問題に課題がみられる。 <理科> (1) ゴムの働き、電気、電流の問題に課題がみられる。 (2) 燃焼と人体の問題に課題がみられる。 <u>【昨年度を踏まえた今年度の取組】</u> ・検証テストで課題となった点について、全教員が共有し、今年度の関連する単元、内容を確認する。 ・研修主任を中心に個別最適化の学習への活用のための AI ドリルの校内研修 (NO4再掲) ・明確な課題設定とねらいに沿った振り返り活動の実施 (NO4再掲)
10	系統図の活用	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> <u>【今年度の課題】</u> ・学年会で教材研究を実施し共通した指導を継続して行う 【P】 (1) 各教科で見方・考え方を意識した授業展開ができるように(仮)「〇〇教科指導のコツ」を小中一貫教科部会で作成する。 【D】 (1) 新しい単元に入る前に学年で確認を行い、課題のある単元は重点的に取り扱う。 【C】 (1) 研修主任を中心に小中一貫教育部会を活用し、定期的な「各教科指導法協議会」を実施させ、進捗状況を確認し、必要に応じた指導を行う。

学校独自の内容・取組**【今年度の課題】**

・学年会で教材研究を実施し、共通した指導を継続して行く。

【P】

(1)教頭・主幹教諭で協議し、週1回以上学年会の時間を確保する。また、学年主任を中心に、学年会で教材研究を実施することで、指導技術の継承を行う。

(2)体育科の系統図については次年度も作成、活用をしていく。

【D】

(1)学年間で教材研究の分担を割り振らせ、ポイントを決め教材研究を行わせることで、効率よく指導方法の検討が行えるようにする意識させる。

【C】

(1)体育授業(器械運動領域)を中心に、「系統を意識したポイント集」【表7】を活用し、学年の系統を意識した授業実践を行わる。管理職(教室訪問)及び学年間(授業研究会)で授業を見合うことで、指導法について確認する。

系統図の活用

A

B

C

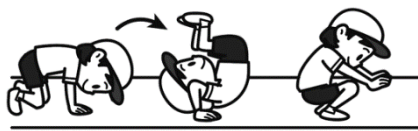
D

☆とび前転(高学年)のポイント・コツ

とび前転



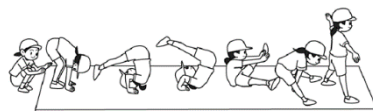
- ・両足で十分に踏み込み、踏み切る
- ・両足で床を蹴るように
- ・ジャンプの間目線は手よりも少し先のマットを見る
- ・できるだけ着手が遠くなるようにねらう
- ・手をつくときは、目線はマット
- ・回転までの「ため」で
- ・膝が曲がらないように
- ・足が曲がらないように
- ・体全体が「くの字」になるように
- ・回る時は目線はおなか
- ・後頭部をつけ、回転する
- ・手をそろえる
- ・目線はおなか
- ・目線の切り替えが大事

☆前ころが(低学年)のポイント・コツ

- ・手を肩幅にしてしっかりマットに置く
- ・勢いをつける
- ・おしりをあげる
- ・頭の後ろをマットにつける
- ・おへそを見る
- ・丸くなる
- ・背骨(体の中心)をマットにつける
- ・かかとをおしりに素早くつける
- ・足裏で着地する

☆開脚前転(中学年)のポイント・コツ**☆開きやく前転**

手を前方につく 足をしっかりとのばす 足がマットにつく直前に開く



- ・しゃがんでスタート
- ・手をできるだけ高く置く
- ・目印より手を高く置く
- ・手をついたおしりを高く上げ
- ・足の親指の付け根で押して回り出す
- ・足をしっかりとのばす
- ・足はマットにつく直前に開く
- ・つま先まで伸ばすと膝も伸びる
- ・途中で足を曲がらない
- ・おしりを上に
- ・膝をひらく(たてる)
- ・足を蹴くタイミングは床に近づいた時
- ・すばやくバック
- ・足を開いた後、手を前すぎずまたの遠くに置く
- ・手をついた時、体重を前に動かす
- ・手のひらとかかとを一緒に置く
- ・手をついた時の目線は前
- ・前足を深めながら
- ・ひざを曲がずに
- ・ひざを伸ばして立つ
- ・いきおいが大事
- ・手で押し出す力が大事

【表7】

マット運動の系統を意識したポイント集

11	ねらいを定めて条件に応じて書く活動の実践		<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・全ての教科で取り組んでいく(行事の振り返り等) <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 相手や目的を意識した「条件に応じて書く」活動の充実 【P】 (1)全教科における「書く活動」の拡充、及び条件に応じて書く場面の意図的設定。 【D】 (1)研修主任中心に、校内研修 UD 部会で検討し、授業の中で相手や目的意識した書く活動を取り入れるよう授業改善を進める。 (2)学年内で統一した感想カード、学習カードを活用し、評価や指導の共通行動を図る。 (3)県学力学習状況調査や質問紙調査の結果を夏季休業中の研修(全職員)にて学年で考察し、課題を把握することで授業改善に生かす。NO.4【C】(3)再掲。 (4)授業改善・学校アンケート調査について研修主任を中心にまとめ、状況を確認する。NO.4【C】(3)再掲。 【C】 (1)授業改善・学校生活アンケート(2)による項目での教職員と児童の意識の違いについて検討する。 また、管理職が校内巡視をして、進捗状況を見届ける。
----	----------------------	--	---

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
12	越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの分析	A B C D	ブロックでの共通分析結果等 自己肯定感の高揚を図っている場面 学年活動 ・ 学級活動 ・ 授業 学校の分析結果 ➡年間を通して自己肯定感が高まるよう、①落ち着いて学習ができる環境づくり②教師による意図的かつ、肯定的な「言葉かけのシャワー」の継続を重点指導目標とする。
13	自己肯定感を授業の中で高める取組	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など 自己肯定感の高揚を図っている場面 授業 学校独自の内容 《育成を目指す資質・能力の指標》 1 多面的・多角的に考え、自分の課題を見つけ、解決する力 ➡授業改善・学校生活アンケート①②③④ 2 思いや考えを、自信をもって分かりやすく伝える力 ➡授業改善・学校生活アンケート⑤⑥⑦ 3 ねばり強く、最後まで頑張る力 ➡授業改善・学校生活アンケート⑩⑪⑫ ➡年間を通して自己肯定感が高まるよう、①落ち着いて学習ができる環境づくり②教師による意図的かつ、肯定的な「言葉かけのシャワー」の継続を重点指導目標とする。
14	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など 自己肯定感の高揚を図っている場面 学年活動 ・ 学級活動 学校独自の内容・取組 ◎肯定的な割合が高い学年がある。高学年として、学校の責任ある仕事への取り組みや教師の日ごろからの声掛けがよい影響を与えたと考えられる。 ●肯定的な割合が低い学年については、手立てを講じていく。➡No, 13 の結果を参照

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
15	(行事・学習・作研など) 児童生徒間の交流	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ・合同避難訓練 ・吹奏楽部交流演奏鑑賞会 西方小、大相模小 ・3校合同サマーコンサート ・合同あいさつ運動 ・国語科作品交流 ・デザイン部、アートクラブの作品交流 ・生徒会「やさしさ宣言」小学校集会 ・2days で、小学生に中学校の様子を紹介 ・小学校への読み聞かせ活動 ・ネットモラルに関する学習 学校独自の内容 【P】 交流の形態を①対面式、②オンライン式、③オンデマンド式の3つで整理し、3校校長会議及び企画調整部会で実施を決定したものについて実施していく。 【D】 (1)大相模中学校より自殺予防の取り組みとして『メンタルヘルスリテラシー』研修を行い、児童生徒が悩みや自殺等について自分だけでなく、友達のことについても SOS を発信できるようにする。 (2)合同あいさつ運動に合わせ、校内あいさつ週間を設定し、登校班の「あいさつカード」を活用し意識の向上を図る。(10 月特活部) (3)3 校合同コンサートを実施し、互いの取り組みの良さを実感させる。
16	(合同部会、合同研修、相互授業など) 教師間の交流	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ・合同研修会の実施 時期 1 学期 ・ 夏季休業中 ・ 2 学期 ・ 冬季休業中 ・ 3 学期 ・出前授業の実施 学校独自の内容・取組 【P】【D】 (1)年度当初に組織編制をするとともに、活動方針についての伝達と各部会の実践の方向性を決める(夏季休業中3校合同教科等部会の実施) (2)東部教育事務所越谷市教育委員会学校訪問及び各校研究授業の相互参観。 (3)小中一貫フォルダを活用した、情報共有の徹底。



(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
17	三校合同民生委員・主任児童委員協議会	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ・大相模中学校区の児童生徒の実態、学校経営、教育活動の実態を理解していただくために年1回実施する。 学校独自の内容 ➡学校関係者評価より、地域との連携についてはおおむね肯定的な回答が得られた。 【P】 大相模地区全体で、地域の子供たちを見守る体制づくりを行う。 【D】 (1)管理職が、民生委員・児童委員と連絡を取り合い、情報収集を実施。必要に応じて対応する。 (2)学校 HP・学校だよりを通じた大相模小学校の教育実践の周知。

(7)ブロックオリジナル

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
18	キャリアノートおおさがみ三校合同学校保健委員	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ・めざす児童生徒像を達成するために、発達段階に応じた自己評価項目(重点10項)を設定し、9年間継続して記録できるものを作成した。 学校独自の内容 【P】 (1)8つのポイントを意識した授業の実践を引き続き行う。 (2)キャリアノートについて、引き続き大相模中学校区独自のキャリアノートを活用し、定期的に成果を見届けていく。 (3)キャリアノートについては、系統性を意識した内容を見直し、継続して実施していく。 【D】 (1)年間を通して、道徳・特別活動を中心に、児童の実態に応じて、指導を行っていく。 (2)大相模中学校区の児童生徒の実態、学校経営、教育活動の実態を理解していただくために三校合同学校保健委員会を実施する。